

1 日時：令和 4 年 10 月 4 日（火）10:00～11:35

2 場所：オンライン・TKP 品川カンファレンスセンター

3 出席者

構成員 対面参加：

東京大学 モビリティ・イノベーション連携研究機構 須田教授・大口教授、中野教授・鈴木(彰)准教授・霜野特任助教・梅田特任研究員・内村特任研究員、電気通信大学 藤井教授、東北大学 鈴木(高)教授、名古屋大学 森川教授、広島大学大学院 藤原教授、東京都市大学 杉町准教授、(一社)モビリティ・イノベーション・アライアンス 天野理事長

WEB 参加：

金沢大学 山脇特任教授（代理）、群馬大学 小木津准教授、慶應義塾大学 重野教授、埼玉工業大学 渡部教授、筑波大学 伊藤教授、東京農工大学 ポンサトーン教授、同志社大学 三好教授・山本教授、日本大学 石橋教授、明治大学 中山教授、神奈川工科大学 井上特任教授、香川大学 紀伊教授、名古屋大学大学院 倉地特任准教授、中央大学 中村教授、早稲田大学 森本教授、産業技術総合研究所デジタルアーキテクチャ研究センター 加藤首席研究員、産業技術総合研究所ヒューマンモビリティ研究センター 北崎センター長、交通安全環境研究所 河合部長、一般財団法人日本自動車研究所 内田副部長、理化学研究所 革新知能統合研究センター 中川チームリーダー、東京大学 モビリティ・イノベーション連携研究機構 長谷川特任研究員

オブザーバー 対面参加：内閣府 木村参事官

WEB 参加：内閣府 荒木氏・杉山氏・保坂氏・平岡氏

新エネルギー・産業技術総合開発機構 田中氏・舟橋氏・宇木氏

事務局支援 対面参加：社会システム株式会社（東野・金子）

4 議事概要

(1) 須田機構長挨拶

(2) 前回議事概要の確認

・前回議事概要は承認された。

(3) 2023 年度以降の活動継続に向けて

・資料 2 について説明

(主な質疑)

- ・モビリティ・イノベーション・アライアンスに参加可能となる時期はいつごろか。
- ・モビリティ・イノベーション連絡会議と並行する形で今年度から参加いただけるよう準備を行っている。
- ・学会会員には組織も入会可能とのことであるが、学術機関に属する組織の要件はあるのか。
- ・モビリティ・イノベーション連絡会議と同様に厳密な要件は考えていない。各組織で意思決定の上、入会いただきたい。
- ・モビリティ・イノベーション・アライアンスでは、どのような調査や議論を行う予定か。
- ・検討の途上であるが、取り組むべき分野横断的なテーマの進め方も含めた幅広い議論を会員と深め、技術、制度整備、インフラ整備、地方独特の課題を総合的に洗い出し、方向性を提言する活動から進めていきたい。

- ・モビリティ・イノベーションには自動運転も含まれ、自動運転の技術面だけでなく、使い方にも踏み込んだ議論には、様々な人が一体に取り組む必要があると考えている。一堂に会して情報共有を行い、勉強ができる場の設立は非常によい提案である。
- ・関連する学術機関、技術者の方々が集まって勉強する場が維持され、さらに拡大する方向であり、法人化は本連絡会議の発展的解消として素晴らしい流れである。社会実装に向け、地域の実情に合わせたルール作りも一つの手法であり、ローカルな視点からの検討も期待する。
- ・新しい議論の対象に境町の事例から見てきた乗降や車内監視などの実用上の課題や保険の問題などを入れ、方向性を示すことが有意義ではないか。また、コミュニティバスや隊列走行などの対象を絞って検討を行い、提言すると良い成果になるだろう。
- ・これまで文理融合の掛け声はあったが進んでおらず、自動運転を契機に法、経済、工学の交通分野が結びつき、動き出す良い流れができています。SIP とともに終了するのではなく、新たな組織で引き続き、この流れを拡大させ、様々な技術に適応するプロトタイプを作っていければ良い。
- ・SIP 第 2 期の学学連携、国際連携の動きを SIP 第 2 期の後につながるよう動き出されたことで、非常に心強く思っている。活動を本格化されることに力点を置いたプレスリリースを内閣府でも発表している。本日の議論も踏まえて、さらに先につながっていくことに期待している。

(4) 研究者データベースについて

- ・資料 3 について説明

(主な質疑)

- ・海外でも同様の動向分析を行うことで、海外における自動運転の研究の動向が把握できるのではないかと。
- ・海外のデータベースには利用上の制約があり、国内同様の分析は難しいが、先行研究的に引用関係分析との比較は可能である。
- ・今後の国内の情報収集課題に向けて、ホームページへの掲載や個別連絡も検討していきたい。

(5) SIP-adus 社会インパクト評価取組状況報告

(6) モビリティを活用したビジネスイノベーションコンテスト

- ・資料 4、参考資料 2 について説明

(主な質疑)

- ・一大学の教育だけではできないような、実際のビジネスとのつながりを学習したり、他大学の学生と交流したりする場にもなっており、学生にとって良い機会になっている。
- ・学生がチームの枠を越えて議論をするなど、今までにない繋がりが生まれている。今後の学生たちの成長が楽しみである。

(7) SIP-adus 国際連携状況報告

- ・資料 5、参考資料 3 について説明

(主な質疑)

- ・10 月 11～13 日に開催される SIP-adus Workshop は対面のみで実施する。ただし、後日オンデマンド配信を行うことを検討中である。

(8) RoAD to the L4 テーマ4 進捗報告

・RoAD to the L4 テーマ4 進捗状況について報告。

(主な質疑)

・質疑なし

(9) メンバーからの情報提供

・資料6について説明

・その他、イベント（試乗会、シンポジウム）開催について情報提供があった

(10) その他

・モビリティ・イノベーション連絡会議は次回の開催を以って終了となる。

・次回の開催は12月にハイブリッド形式での開催を予定している。

以上